

平成16年度第4回

熊毛地区地域審議会 会議録

日時 平成16年6月28日

場所 周南市 熊毛総合支所

東庁舎2階会議室

平成16年度 第4回 熊毛地区地域審議会 会議録

1. 開催日時 平成16年6月28日(月)
(開会) 午後14時00分
(閉会) 午後16時10分
2. 開催場所 周南市熊毛総合支所 東庁舎2階会議室
3. 出席議員 (1) 田 崎 義 雄
(2) 西 田 加代子
(3) 竹 村 正 美
(4) 山 下 和 恵
(5) 塩 見 修 二
(6) 角 田 美彌子
(7) 大 山 超
(8) 徳 本 豊
(9) 村 川 哲 夫
(10) 増 原 靖 子
(11) 河 内 齊
(12) 柳 武 良 江
4. 欠席議員 (1) 中 川 研 一
(2) 徳 毛 裕 之
(2) 河 口 俊 彦
5. 出席職員 特別参与 大 田 良 充
熊毛総合支所長 木 谷 教 造
同 次長 堀 常 宗 城
地域振興課課長補佐 松 本 豊 一
同 担当 久 行 竜 二
同 担当 中 村 悟
6. 会議次第 別紙のとおり
7. 会議経過 別紙のとおり

8．会議次第

(1) 開会

(2) 会議内容

周南市まちづくり総合計画・基本構想(案)に係る答申(案)審議

(3) その他

今後の開催日程について

(4) 閉会

9．会議経過

(1) 開会

(2) 配布資料の確認

(3) 大田特別参与 開会あいさつ

(4) 会議

(5) 大田特別参与 閉会あいさつ

(6) 閉会

10. 会議の内容

会 長： これより第4回目の熊毛地区地域審議会を開催いたします。これまで委員さんから出されたご熱心なご意見を事務局が整理・調整し、ようやく答申案として、本日皆様方のお手元に配布させていただきました。加筆が必要であれば、遠慮なくご意見をお願いしたい。まず最初に、今後の日程について事務局から説明をお願いしたい。

事 務 局： 答申後の日程について説明。

事 務 局： 答申案の構成、スタイルの説明。

会 長： 答申書のスタイルについて、ご意見を伺いたい。また、答申書の参考資料を添付することについて委員のみなさんいかが思われるか。

（委員による「異議無し」の声と拍手）

それでは答申書のスタイルや参考資料の添付についてはお手元の資料のとおりといたします。

事 務 局： 答申書の各項目ごとにご意見をお願いし、確認させていただきたい。
答申書 1 番の説明

会 長： これでよろしいか。

（委員による「異議無し」の声）

では、次にいきます。

事 務 局： 答申書 2 番の説明

会 長： いかがであろうか。

（委員による「異議無し」の声）

それでは、このとおり答申させていただきます。

事 務 局： 答申書 3 番の説明

会 長： まちづくりの5つの目標に「(ひとが)」と記載されている問題については、いろいろとご意見があったが、括弧を取ると言う意見が大勢を占めたように思い、こうした答申にまとめた。いかがであろうか。

（委員による「異議無し」の声）

では、このとおり答申とします。

事 務 局： 答申書 4 番の説明

会 長： 少子化問題は周南市だけの問題ではない。日本全体の大きな課題である。国を挙げて、様々な施策の中で少子化対策に取り組んでいただきたいと思っている。周南市としても人口増に向けたさらなる施策の推進を謳うべきという答申書にしている。

委員： 人口17万人にもって行きたいというのは、7章の「産業の振興」や「観光の振興」、「男女共同参画社会」などの項目で謳うのがいいか、とも思うが。

委員： 「第7章 施策の大綱」の一番初めの前書きとして書き込んだらいいのではないだろうか。

委員： 少子化対策は大切であるが、同時に、せっかく子どもが産まれても、大学などで、市外に流出している。流出を防ぐための周南市の魅力、私はこの田園風景のこの街が大好きであるが、若者にとっては物足りないものとなっている。流出しなくてもすむ魅力ある街づくりを作っていくことが必要である。

委員： 働き場が無いのが問題だと思う。

委員： 沖縄にあるような、芸能活動に結びつくような面白い養成学校とか、なにか魅力あるものがほしい。

会長： 地元の徳山大学でも地元出身はあまりいない。産業の振興を含め、人口定住にむけた、様々な施策が求められる。

会長： 「第4章 目標人口」での、17万人という目標についての説明が少なく、ここに目標を達成させるための具体的方策を加筆する旨、答申に加えたいがよいか。なお、答申書の文面は私に一任してほしい。

(委員による「異議無し」の声)

事務局： 答申書 5番の説明

会長： これでよろしいか。

(委員による「異議無し」の声)

事務局： 答申書 6番の説明

委員： 文面中「子供」とあるが、この使い方はふさわしくないので訂正をお願いしたい。

事務局： 「子ども」に訂正いたします。

事務局： 答申書 7番の説明

会長： よろしいでしょうか。

(委員による「異議無し」の声)

事務局： 答申書 8番の説明

委員： 学校5日制と「こころの教育」、「生きる力の教育」についてはその関連性が不明確だ。実態が違っておれば、やはりこの箇所の基本構想案の文面を削除したほうがよい。

委員： 学校5日制は、もともとは「ゆとりの教育」の一環で出てきたものだ

と思う。

委員： 「学校教育の充実」と「学校週5日制の導入」は結びつかないように思う。

会長： 答申の中にあるように、因果関係が不明確ということは委員のみなさんの共通した意見に思われる。記述表現を変える必要があるという答申をしたいと思います。

事務局： 答申書 9番の説明

会長： 鶴のことについては、ご存知のとおり県鳥であるが、飛来数は危機的状況である。出水市より傷病ヅルを移住させるため交流センターに保護ケージが設置された。今月3日には二井知事が出水市を訪問し市長に要請しているなど、県も積極的な姿勢であるので、答申にも記載した。

新南陽の風車、熊毛のヅル、これらを周南市民の共通の財産にしようという答申も他の審議会ではあるようである。当審議会としても、付帯意見の「熊毛地区の地域振興について」の最後に掲げている。こうしたことでよろしいか。

（委員による「異議無し」の声）

事務局： 答申書 10番の説明

会長： 周南市は他市に比べて児童館の数が少なく、熊毛には全く無い。せめて熊毛にも一つは設置していただくように要請していきたい。この項についてはこうした答申でよろしいか。

（委員による「異議無し」の声）

事務局： 答申書 11番の説明

委員： 基本構想は理念的なものであるから、これはこれでいいと思うが、基本計画、実施計画でどのような具体的施策を検討し実施していくかが重要である。

会長： 具体的な施策について地域審議会としても提言していきたい。

事務局： 答申書 12番の説明

（委員による「異議無し」の声）

事務局： 答申書 13番の説明

会長： 費用対効果、施設の有効活用など行政改革にかかわる答申であるが、これでよろしいか。

（委員による「異議無し」の声）

事務局： 答申書 14番、15番の説明
(委員による「異議無し」の声)

会長： 本日の会議でのご意見を踏まえ、字句の訂正や趣旨を超えない範囲での文書の表現訂正をさせていただき、市長への答申書とさせていただきたいがよろしいでしょうか。

(委員による「異議無し」の声)

先般からのご審議により、やっと7月1日に答申できる運びとなった。皆さんには心よりお礼申し上げたい。事務局から説明があったように、四地区の各審議会の答申を、策定委員会がどのように集約されるか、非常に関心のあるところである。どのように基本構想案に盛り込まれるか、わかり次第、委員の皆様へ資料を配布したい。次回の審議会については7月末ごろをめどに開催し、策定委員会で検討されたものを確認したい。

このたびの市議会議員選挙により、熊毛地区からは市議会議員が3名、鹿野地区では1名となり、地域審議会の役割が重要になっている。実施計画でも十分に市長に提言をしていきたいと思っている。優先度の高いものについては、来年度の事業に取り上げていただくように、市長に提言していきたい。出された意見すべてをお願いするということにはならないので、審議会の中で議論し、優先順位なども検討して提言していきたい。そのためには、まず担当部署から予算要求を上げてもらうことが必要であり、審議会での議論も時期が早いほうがよい。

休耕田の利活用については、農地法との関連などあり、農業特区などの認定を受けることが一番必要だと思っており、別枠で提言をしたいと思う。計画書なども必要であり、必要書類や手続きなど、事務局でも調査していただきたいと思う。

委員： これは事務局にお伺いしたいことであるが、住居表示についてである。周南市になって、住所が周南市大字 となり、「熊毛」という表現がなく、非常にわかりにくく不便である。「熊毛区」など表示したほうがわかりやすいと思うが、そういうふうにはできないのでしょうか。

事務局： 住居表示の変更については、地域を限定して現在見直しが検討されている。表示の仕方はいろいろある。「熊毛」という言葉があったほうが良いという意見と、逆に無いほうが良いという意見もある。次回の審議会では住居表示については担当からご説明したい。

会長： このたびの答申案の取りまとめについて、皆様のご協力に重ねて感謝して、本日の審議会を終了したい。

上記は会議の経過の要点を記載したもので相違ない。

平成16年 7月 6日

熊毛地区地域審議会 会長 徳 本 豊